

【南九州地区納税貯蓄組合連合会会長賞】

「税」を知ろう

荒尾市立荒尾第三中学校

三年 牛山 穂香

税金は私たちの生活をあらゆる場面で支えてくれている。私は今まで税については「なんでも余計に金払わな」と「税なんかなくていいや」と買い物をしながら思っていた。そうやって税について悪いイメージばかりもっている私に税について勉強をするときがきた。するとどうだ、税をマイナスに、つまりらんものと思っていた私だが、少し興味がでてきたではないか。私の税への印象はいい方向に結構変えることができた。その後、考えたことがある。私もふくめ、なぜ人々は税に対して悪いイメージをもっているんだろう、と。そんなことをボ―ッと考えていたある日、私はテレビを見たら答えが分かってしまった。最近、テレビやスマホなどのメディアが増税や少子高齢化によって税のふたんが大きくなっているなどの私たちにとってよくない情報を発信しているからだ。だから人々には「税は余計に金を払わなくてはいけないよくないやつ」としか目に映っていないのだ。しかし、税について正しく知れば、「税は私たちの暮らしを支えてくれるいいやつ」に私のように変わるのではないか。

税の印象をいい方向に変えるために、税の大切さを知ってもらうために私が考えた案をここに書いてみよう。1つ目。正しい知識もなしに税を悪く思っている人も多いだろう。税のいいところをたくさん知ってもらうために、まずは学校で税についての授業をしっかりとやるべきだと思う。それも中学生からではなく、小学生からやればいいと思う。地域でもチラシなどで発信するべきだと思う。2つ目。税は救急車や病院、学校、道路やゴミ収集などに使われている。それを気にしないで毎日過ごしている私たちだが、「税が使われてつくられている」と目に見える形にしてみてもいいだろうか。例えば、「このゴミ収集車は税金でつくられました」を車にかくという感じだ。そうしたら人々は少しでも税は身近なものであること、税のありがたみを感じることができであろう。

このように税について知ることによって、悪いやつと思っていた税も、ありがたいいやつへと印象を変えることができる。税を悪いやつそのまま終わってしまうのはもったいない。正しく学んで、知って、新たな視点からこの美しい日本を見てみないか。